

2011（平成23）年度 京都大学 入試問題 文系 第1問 解答例

問一

帽子屋は、老いても国家に頼れず、視力も失ったが、生涯一日に一個の帽子を作るという仕方で、自身の手で縫うという仕事をしとげてゆく生き方だけは続けたということ。

問二

自身の手だけを頼りに毎日帽子を作る仕事を自ら一個の生き方と認めて果たし続けた者にふさわしく、帽子屋は、権力から自由に生き、無名のまま密かに死んだということ。

問三

各時世の政治体制における、それぞれの支配の論理によって組織され、正統化され、補完されることを受け入れ、自己の利益を図って保身的に生きようとするということ。

問四（文系のみ）

一日一個ずつ帽子を作ってゆくという無名の帽子屋の行為は、政治体制の下に圧されて果たされる生に見える。しかし、自ら引き受けた一個の自分の生き方を他の人々の間で自律的につかみなおすいとなみを手離さなかったかぎり、いかなる支配の論理をも阻んで生きる自由があるから。

問五

前者は、権力による支配の論理によって組織され、正統化され、補完される、支配の思想に追従した生を理想として追求する生き方である。これに対して、後者は、世界が不完全であるという辛い思いを日々しのぎつつ、支配の思想を超え、現在の自己の生の事実を正しく自覚して受容し、一個の自己として自律的で必然的な生を不断に続ける生き方である。

*理系第一問と共通。ただし、問四は文系のみ。